

平成22年9月3日群馬県公社総合ビルホールに於いて、(財)群馬県建設技術センター(小阿瀬理事長)、群馬県造園団体協議会(清水会長)、(社)日本造園建設業協会群馬県支部(山田支部長)主催により開催された。行政職員、造園関係者、一般県民など150名を超える人が参加した。講演会はまちづくりの観点から街路樹の在り方、適正な管理まで考えようと開催された。

主催を代表して小阿瀬理事長、清水会長が挨拶を行い講演へと移った。

最初に樹木医・宮田美恵氏が『ぐんまの街路樹について』と題し樹木医の立場から群馬の街路樹の現状を紹介しながら「街路樹は寿命がある」、病虫害の早期発見・早期防除の必要性を説き街路樹は「あって当たり前、なくてはならぬかけがえのないもの」と位置づけた。続いて館林市都市建設部都市整備課・課長矢島勇氏が『花と緑のぐんまづくり2010 in 館林』について35日間開催されたイベントの具体的内容とフェスティバルの成果、来場者数、経済効果など説明した。また(社)日本造園建設業協会技術調査部長・野村徹郎氏は『美しい都市景観をつくる街路樹』—公共空間の

みどりーと題し日本中の緑を調査している立場から実情を紹介し「緑の役割・必要性・将来像」について語り、街路樹の持つ機能、経済的・心理的効果まで説明し、専門家の役割、街路樹剪定士の必要を説いた。

休憩の後清水会長の進行で『パネルディスカッション』を行い、パネラーとして講演を行った3氏に県都市計画課の堺浩志課長が加わり「ぐんまの緑の街並みについて」それぞれ専門の立場から意見交換がなされ野村氏は「街路樹・樹種選定に住民の意見が取り入れられるようになりどこでも同じ樹種が増えてきている」と問題提起した。宮田氏は「街路樹の更新が一番の課題」と指摘し合わせて病虫害の駆除についても講演に続き再度問題提起した。

懇談会においても公園の特色・地域性が論じられたが、街路樹においても気候風土を考慮せず「らしさ」の創出など程遠く感じられ造園に係わっている官も業(民)も大変な努力が今後も必要であろう。また両懇談会、講演会において質疑応答が無く一方的な勉強会になった感があり一般県民の参加者の意見や感覚を知るチャ

ンスであったような気がする。今後も緑化に関する多くの課題をこの様な形で議論できる場が継続される事が業界の質の向上にも広報にもなると確信している。



群馬みどりの街並み講演会